

裾野スタイルで暮らせるコンパクトシティの実現に向けて

静岡県立大学 経営情報学部 岸研究室

指導教員：准教授 岸昭雄

参加学生：鈴木紫苑、曾根原恒輔、早川裕貴、山田彩歌

1. 要約

人口が社会減少している裾野市は、郊外の生活の質を維持しつつ、街中への人口の集積を図る、いわゆるコンパクトシティを目指している。その実現のために、中心市街地であろうと郊外であろうと魅力的な暮らしができることをアピールする必要がある。本研究は、現地視察やワークショップ等によって把握した裾野市の中心市街地と郊外の魅力を踏まえて、裾野市ならではの魅力的なライフスタイルを提案する。

2. 研究の目的

現在、裾野市の人口の社会動態は、他の地域への流出が多く社会減少の傾向が見て取れる。人口減少が進んでいる地域では、街の持続可能性を維持するためにコンパクトシティを目指すケースが多くあり、それは裾野市も例外ではない。中心市街地は商業施設が集約される市街化区域に指定されている一方、郊外部は都市化が抑制される市街化調整区域に指定されている。コンパクトシティを目指すためには、市街化区域に人口の集積を図る必要がある。その一方で市街化調整区域に形成されている既存の集落の生活の質も維持しなければならない。このような現状を踏まえながら、裾野市に住んでみたい・住み続けたいと思ってもらえるような提案をすることが本研究の目的である。

3. 研究の内容

現地視察を通じて裾野市の魅力をまとめ、ワークショップで居住者の方々の意見を取り入れ、魅力的な暮らし方を考えた。並行して、裾野市の各コミュニティセンターや参考になりそうな複合施設の視察・調査も行い、地域コミュニティの核としてのコミュニティセンターのあり方についても考えた。

4. 研究の成果

(1) 当初の計画

6月に1度裾野市との打ち合わせを行い、各種政策及び現状の問題点を把握する。それをもとに、7、8月に現地視察を複数回行い、裾野市との打ち合わせを経たうえで、住民へのヒアリング調査やワークショップの開催を行う。そこで居住地としての裾野市の魅力を発

掘し、具体的な「裾野スタイル」を提案する。

(2) 実際の内容とその理由 (B: 一部修正)

- ・6月5日 裾野市と初回顔合わせ兼打ち合わせ
視察の打ち合わせが必要であったため。
- ・7月10日 裾野市現地視察
裾野市で実現可能なライフスタイルを提案するため、生活資源や観光資源などを視察。
- ・10月16日 裾野市現地視察および裾野市との打ち合わせ
支所の視察とワークショップを開催するにあたり打ち合わせが必要であったため。
- ・11月19日 伊豆ゲートウェイ函南、くるら戸田視察
裾野市のコミュニティセンター活用の際に参考になりそうな2つの複合施設を視察するため。
- ・11月20日 伊豆市役所と裾野のコミュニティセンター(須山、深良、富岡)を視察
土肥支所と裾野の各コミュニティセンターの実態を知るため。
- ・12月9日 ワークショップ開催
自分たちなりの裾野暮らしの魅力をプレゼンし、居住者の方々の意見をいただくため。

B: 一部修正の理由: 裾野市の現地視察の結果、コミュニティセンターを核とした地域コミュニティの活性化がポイントとなったため、参考となる県内事例の視察を追加した。

(3) 実績・成果と課題

2度の現地視察の結果としては、「豊かな自然を有している」「子育て世代にやさしい」「地域のコミュニケーションの場としてコミュニティセンターが提供されている」といった点が魅力的に映った。ワークショップでは各グループで暮らし方を挙げていただき、最終的にどの暮らし方が魅力的であったかを投票する形式をとり、「もったりあげたりなどのコミュニケーションの中での暮らし」「小学生になるまで診察料が無料になるなど子育て世代にやさしい暮らし」「大企業へ地元からの採用枠がある」といった意見に票が集まり、住民の意見を取り入れて具体的な暮らし方まで考えることができた。県内には特徴の似た地域が多くあるため、どのように競争しオンリー1を目指すのかという点が課題である。

(4) 今後の改善点や対策

静岡県内には裾野市に類似する市が多くあるため、どのように競争しオンリー1を目指していくのかという課題がある。この点は、裾野市だけの特徴を効果的に用い、他の地域との差別化を図ることで解決できると考えている。具体的には、富士山が身近にあることや、首都圏までの距離が近いことなどの裾野市だけの特徴を、自然に恵まれ地域コミュニティがしっかりと機能している中で日々の生活を営むことができるという従来の地方都市の特徴に付け加え、裾野市ならではのライフスタイルとして提案することを考えている。

5. 地域への提言

裾野市に住むことにどのような魅力的な点があるのか、イメージしづらい部分が多いと

考えられるため、イメージさせやすいライフスタイルの例を考え、提案することとした。裾野市は、市街地と郊外で特徴が大きく異なる印象を受けたため、今回は2つに分けた。

まず郊外に住む若者に対しては「地元採用枠を利用して大企業に就職し、実家から車通勤をしている。休日は幼馴染や地元の友人たちとパノラマロードや東京までドライブしたり、イエティでスノボをしたりしている。その後幼馴染と結婚し、子供も生まれたので、裾野インターチェンジに近く地価も安いサンステージ裾野にマイホームを購入した。そして、地域のコミュニティがしっかりと機能していて、顔見知りが多いので事件に巻き込まれにくく安心である裾野市で、休日は子供を連れてぐりんぱやこどもの国を訪れたり、小鳥のさえずりの聞こえる近くの森で遊ばせたりするなど自然と触れ合いながらのびのび子育てをしている。また地域の人の子供たちをかわいがってくれ、学校に通うようになったらコミュニティセンターで宿題もできるため、夫婦で共働きができる。さらに夫婦の実家も近いため、家族三代でサントムーン柿田川でのショッピングを楽しんだり、毎年の結婚記念日には親に子供を預けることでできた二人の自由時間を使って、富士山も見渡せる芦ノ湖スカイラインで夜景を眺めながら思い出に浸ったりしている。さらに地域の人とは家族ぐるみの付き合いで、年に数回開催される地域の祭りにも参加している。深良用水で育てた新鮮な野菜やお米を地域の人からももらったり、東京への旅行のお土産や趣味で作るお菓子をあげたりすることで交流を深めている。」というライフスタイルが魅力的だと考える。

次に市街地に住む若者に対しては「裾野駅から通勤圏内の例えば三島市や沼津市、静岡市にある企業に就職し、家賃の安いマンションから電車で通っている。平日は仕事をこなし、仕事帰りには裾野駅のすぐ近くで夜まで営業しておりマックスバリュなどが入っているベルシティ裾野で夕飯の買い物をしたり、たまに裾野駅周辺の居酒屋に行ったりする。休日は駅まで歩いて友人たちと飲みに行けるため終電を気にする必要がなく、裾野からは東京まで格安で行ける高速バスの便が多く出ているため気晴らしにショッピングもしている。職場で出会った女性と恋愛して結婚してからも必死に働き、お金もある程度貯まったため、駅の近くに家を建てることができた。産婦人科や病院が近くにあり、小学生になるまで診察料が無料になるという子育て支援の制度があるため、出産や子育てに最適である。妻は市外から裾野に移住してきたため初めは知り合いもなく不安そうだったが、地域の人がたくさん参加しているイベントが多くあるおかげで友達を作ることができ、近所の方たちの助けも借りて充実した子育てができているようである。さらに、子供会や市役所で行われる子育て世代向けのイベントに参加すると、先輩ママからアドバイスや子供の衣服のおさがりももらえるので非常に助かっている。」というライフスタイルが魅力的だと考える。

また、上記のように裾野市で魅力的な生活を送るには、「地域コミュニティ」や「コミュニケーション」が重要であると考えた。これを行政の面から支えるための提案として、各地域に存在するコミュニティセンターを、いくつかの機能を集約した複合施設として整備

し、地域コミュニティの核としてさらに活用されるようにするのが効果的であると考えられる。いくつかの複合施設を視察したうえで、行政で作られた複合施設の事例としては、伊豆市役所の土肥支所を参考になると考えた。また、余裕があれば民間資本を用いて複合施設を整備する方法も検討していただきたい。民間資本を用いた事例としては、伊豆ゲートウェイ函南やくるら戸田といった施設が参考になると考えた。

6. 地域からの評価

今回のワークショップの最後に、参加していただいた地域住民の方々に感想や意見などのアンケートを取った。そこから、裾野市役所と連携して静岡県立大学の学生の視点から裾野市に貢献している姿を見て非常に感心した、ワークショップを踏まえ最終的に学生がどのような結論に至ったのか知りたいという意見をいただいた。

また、裾野市役所の方々からは、昨年の6月から静岡県立大学の学生と長期にわたり裾野市ならではのライフスタイルを考えていくことができ、またワークショップでは地域住民の方々とは活発な議論を交わしている姿を見て感心したというご意見をいただいた。



ワークショップの様子